

釧路市立博物館所蔵 1920 年代植物標本群の実態解明

釧路市立博物館 加藤ゆき恵

研究の背景

釧路市立博物館植物収蔵庫には、1923～28年に採集されたと考えられる植物標本群が、未整理のまま保管されている。これらの標本は30年ほど前に寄贈されたものであるが、採集者は不明である（前任者からの情報）。200点を超える標本の大半は採集年月日、採集地が標本紙等書かれており、標本の状態も比較的良好である。標本の採集地は、春採、別保、鳥取、阿寒など釧路地方の地名が書かれているほか、円山、北大植物園など札幌で採集されたものも含まれる。

釧路市立博物館の前身である釧路市立郷土博物館が開館したのは1936年で、これらの標本の採集年はそれよりも前である。これらの標本の採集者は不明であるが、分類群や採集地で整理されており、また英語の日付が書かれ、学名が記された標本もあることから、ある程度学識のある人によって、何らかの学術調査の際に採集されたものであることが推察される。

そこで、これらの標本群の標本情報を整理して実態を解明すると共に、道内外の植物標本庫（主に北海道大学）において同日・同場所で採集された標本の有無を調査し、大学等の調査の一環（あるいは補助）として採集されたものであるか否かを検討する。



調査内容

標本群の全容を解明するため、植物標本をリストにし、未同定の標本を同定した。標本をはさんでいる新聞紙の特徴についても把握した。このリストを基に、戦前の北海道内産植物標本が多く収められている北海道大学総合博物館陸上植物標本庫（SAPS）で調査を行なった。標本調査は、リスト掲載種のほか、釧路地方でよく見られる植物種についても行なった。

結果

①標本群の特徴

標本の採集場所、採集日の主なものは以下の通りであった。

- 1925年7月22日 春採 8月11日 厚岸
8月20日から23日 札幌（円山、琴似、植物園）
8月27日 上別保、別保、別保口
10月10日、12日（?）、13日 鳥取（鳥取川）
10月17日 オタノシケ（大楽毛）
1926年8月14日 阿寒湖（湖畔、滝口、ボッケ）
8月15日 雄阿寒岳 8月16日 雌阿寒岳
8月17日 飽別、雄別
8月29日 クッチャロ湖畔（屈斜路湖?）
1927年6月15日から19日 鳥取（鳥取泥炭地、鳥取野地）
6月24日 雄別炭山

これらの標本には、以下のような特徴があった。

- (1) 標本採集地・採集日が偏っている、(2) 阿寒～雄別ではスゲヤシダを中心に採集するなど、採集する分類群にやや偏りが見られる、(3) 鳥取泥炭地、鳥取川など現在は自然環境が失われた場所で採られたものがある。

②標本庫調査（北海道大学総合博物館）

リスト掲載種及び釧路地方でよく見られる植物種の釧路地方産標本を調べた結果、調査対象の標本群と同日・同場所で採集された標本は存在しなかった。1920年代に釧路地方で採集された標本は、多くが北海道帝国大学の宮部金吾、館脇操、秋山茂雄、伊藤誠哉によって採集されていたが、一部 Hiratsuka、照井陸奥夫によって採集されたものもあった。釧路市立博物館の1920年代標本と同じ日に近い場所で採られた標本もあったが、関連はないものと考えられた。

1880年代～1920年代にかけて釧路地方で採られた標本は、

- ・宮部金吾（1880年代、1910年代：道東～千島の植物調査）
- ・川上瀧彌（1897年：釧路～阿寒湖周辺の植物調査）
- ・館脇操（1920年代道東の植物調査）

といった北大関係者の標本群があった。その他に上記以外の採集者として以下の名前があった。

- ・小花和太郎（1885年雪裡）
- ・伊東祐史 [祐夫?]（1885～1895年：雪裡）
- ・中村守一（1886～1889年：厚岸～尺別）
- ・橋本広五郎 [広丑郎?]（1889～1990年：アトサヌプリ、厚岸）
- ・西川冠次郎（1913～1914年：釧路）

考察と今後の展開

釧路市立博物館にある1920年代採集標本群は、採集日・採集場所が同じものも多く、採集者が釧路地方に住んでいて春から秋にかけての植物の季節にまんべんなく採集しているというよりも、他所から旅行などで来釧路した際にまとめて植物を採集したという印象を受ける。標本をはさんでいる新聞紙も、釧路新聞、北海タイムスなどの地方紙は少なく、萬朝報という全国紙がほとんどであることから、採集者が釧路以外あるいは北海道以外在住であることをうかがわせる。採集者の特定は難しいことが推測されるが、標本群は100年近く前の釧路の植物相・植生を知る手がかりとなることから、新聞紙とあわせて整理を進め、資料報告や博物館での展示などで活用していく予定である。